

# ドイツ民主主義教育における生徒参加の類型化に関する研究

## A Study on a Typology of Student Participation in Democracy Education in Germany

柳 澤 良 明<sup>1</sup>

Yanagisawa Yoshiaki

### 1. 本研究の目的と課題

本研究の目的は、ドイツで取り組まれている民主主義教育 (Demokratiepädagogik, Demokratieerziehung, Demokratiebildung) において見られる生徒参加 (Schülerbeteiligung, Schülermitwirkung) にはどのようなタイプがあるのか、その類型化を行うことである。筆者はすでに、この類型化に関して「生徒参加タイプの試案」を作成している (柳澤 2021)。本研究ではこの試案をもとに、新たな実践事例を加えて分析を進め、生徒参加タイプの精緻化を図る。

これまで筆者は、ドイツにおける民主主義教育に関する研究を進め、民主主義教育の理念や実践枠組みの解明、生徒参加機能や実践事例の分析等に取り組んできた (柳澤 2014、柳澤 2016、柳澤 2018、柳澤 2020、柳澤 2021、等)。ドイツの民主主義教育は2000年代初頭から取り組みが始められ、その取り組みは次第に拡大している。とりわけ近年では、2018年に常設各州文部大臣会議 (KMK) から決議「学校における歴史的・政治的教育の目的、対象、実践としての民主主義」 (Demokratie als Ziel, Gegenstand und Praxis historisch-politischer Bildung und Erziehung in der Schule) (以下、KMK決議 (2018) とする) が公表されたことで、各州の取り組みはより一層拡大している。

こうした民主主義教育には次のような3つの特徴が見られる。第一に、多様な実践形態が見られる点である。民主主義教育は特定の教科で実践されるのではなく、各校においてきわめて多様な形態で、またきわめて多様なテーマのもとで実践されている。

第二に、学校全体の取り組みとして実践されている点である。この点に関しては、KMK決議 (2018) において学校が取り組むべき課題について論じられる中で、「民主主

義を学び経験することは横断的課題 (Querschnittsaufgabe) であることを意味している」 (KMK 2018: 8) と指摘されたことに端的に示されている。民主主義教育はドイツで長年取り組まれてきた政治教育 (Politische Bildung) と異なり、社会科での学習に止まらず、学校のあらゆる教科学習において取り組まれ、さらには教科学習だけでなく、日本でいう特別活動に当てはまる諸活動においても取り組まれる学校全体の取り組みである。

第三に、どのような民主主義教育も生徒参加によって成り立っている点である。これは、民主主義教育の理念として「民主主義的行動能力の獲得」 (Erwerb Demokratischer Handlungskompetenz) (de Haan/Edelstein/Eikel (Hrsg.) 2007: 6) が重視されることにもとづく。授業やプロジェクト活動で学習した事柄を日常の学校生活の中で実践していくことをとおして、生徒が民主主義的な行動能力を獲得していくことが目ざされているためである。

しかし、多様にみえる各校の実践を分析していくと、基本的な理念や取り組みには一定の類似性が存在すること、多様に見える原因はいくつかの異なる活動の組み合わせから成り立っていること等が見えてくる。そのため、各校の実践を詳細に分析し、その中から中心的な理念や取り組みを抽出することで生徒参加を類型化することが可能であると考ええる。

筆者がすでに作成した「生徒参加タイプの試案」を表1に示す (柳澤 2021: 57)。

ただし、この類型化はまだ試案の段階に止まっている。この試案を提起した論稿の最後に、今後の課題の一つとして「事例分析の蓄積による生徒参加タイプの精緻化」を挙げた (柳澤 2021: 57)。さらに新たな実践事例を加え、分析を進める必要がある。

1 香川大学

そこで本研究の課題として次の3点を挙げる。第一に民主主義教育の新たな実践事例を取り上げ、生徒参加の取り組みを記述する。第二にこれらの取り組みをもとに生徒参加タイプの分析を行う。第三にこの分析をもとに生徒参加タイプの精緻化を図る。

## 2. 民主主義教育における生徒参加の実践事例

### (1) 事例校の選択方法

柳澤(2021)の試案作成の際は、「ドイツ学校賞」(Der Deutsche Schulpreis)の受賞校から事例校を選択した。本研究では、事例校の偏りを可能な限り防ぐために新たな方法を採用。「ドイツ学校賞」と並び、民主主義教育に取り組んでいる学校の中から、とくに優れた取り組みを行っている学校を表彰する「民主主義を体験する—『民主主義的な学校開発』賞」(DemokratieErleben – Preis für demokratische Schulentwicklung)(以下、「学校開発賞」とする)の受賞校から事例校を選択する。「学校開発賞」は民主主義教育学会(DeGeDe)と関係団体が作る連合体(Bündniss)「民主主義を体験する」(DemokratieErleben)によって2015年

に創設された賞であり、2年に1度、審査が実施される。

同賞における評価の観点となる「質の基準」(Qualitätsstandards)については、すでに柳澤(2020)で取り上げており、本発表ではその骨子のみをDeGeDeのHP(<https://www.degede.de/project/demokratieerleben-derpreis/>)から紹介する。ただし、柳澤(2020)で取り上げた時点から一部変更が見られるため、本発表では最新バージョンの観点を示す。

まず、表2は「質の分野」(Qualitätsfelder)として挙げられている4点である。応募校はこれら4つの「質の分野」から1ないし2分野を選択する。

つづいて、表3は「開発領域」(Entwicklungsbereiche)として挙げられている8点である。応募校は、選択した「質の分野」ごとに、8つすべての「開発領域」について説明しなければならない。

8点のうち、以前は「学校公開と協力」(Schulöffnung und Kooperationen)と標記されていた点が、「学校外の関係者との協力」(Kooperationen mit außerschulischen Trägern)へと変更されている。しかし、内容的に大きな変更はない。

表1 生徒参加タイプの試案(事例校:3校)

	タイプⅠ:体験活動型	タイプⅡ:授業づくり型	タイプⅢ:問題解決型
事例校	ノイピーン学校	マルティン学校	マティアス・クラウディウス学校
行動形態	責任遂行	自己決定	共同決定
活動の場	学校全般	授業/学習	学校全般

表2 「学校開発賞」の「質の分野」

質の分野 (Qualitätsfelder)	子どもの権利 (Kinderrechte)
	多様性 (Diversität)
	参加 (Partizipation)
	インクルージョン (Inklusion)

(<https://www.degede.de/project/demokratieerleben-derpreis/>)

表3 「学校開発賞」の「開発領域」

開発領域 (Entwicklungsbereiche)	民主主義に関連した能力の育成 (Förderung demokratiebezogener Kompetenzen)
	学習集団と学級 (Lerngruppen und Schulklassen)
	学習文化 (Lernkultur)
	学校文化 (Schulkultur)
	学校外の関係者との協力 (Kooperationen mit außerschulischen Trägern)
	人材開発 (Personalentwicklung)
	学校マネジメント (Schulmanagement)
	学校プログラム (Schulprogramm)

(<https://www.degede.de/project/demokratieerleben-derpreis/>)

これらの観点とともに、さらに具体的な基準として挙げられているのが、2011年にDeGeDe等、7つの関係機関が開発した「民主主義教育的な学校の指標一覧表」(Merkmale demokratiepädagogischer Schulen – Ein Katalog) (以下、「学校指標」とする) (LISUM 2011) である。「学校指標」は学校開発の際の手がかりとして挙げられており、2011年の第1版 (LISUM 2011) 以来、2013年に第2版 (LI 2013)、2016年に第3版 (DeGeDe 2016)、2017年に第4版 (DeGeDe 2017) が公表されている。

「学校開発賞」はこれまで2015年、2017年、2019年の3回実施され、3校、3校、7校 (うち、「大賞」3校、「特別賞」4校) が受賞している。本研究では、2019年の審査で「大賞」(Hauptpreis) を受賞した3校を取り上げる。

## (2) 事例Ⅰ：バート・ミュンダー基礎学校 (Grundschule Bad Münster)

### ①事例校の概要

同校はニーダーザクセン州のハーメルン・ピルモント郡バート・ミュンダー市にある公立の基礎学校 (第1学年～第4学年) (日本の小学校1～4年に相当) である。167名の生徒 (受賞時) (ドイツでは初等教育でも生徒 (Schüler) と表記する) が在籍し、うち146名が全日制課程に参加する部分義務型の全日制学校 (Teilgebundene Ganztagschule) である。教員24名、特別支援教員4名、教育助手 (pädagogische Mitarbeiter) 11名、試補教員5名がいる。また同校は「民主主義的な行動」(Demokratisch Handeln)、「ニーダーザクセン州生徒平和賞」(Niedersächsischer Schülerfriedenspreis) 等を受賞している。

同校の取り組みとして、DeGeDeの受賞校を紹介するHPでは、「参加の構造とプロセス」「民主主義的能力の育成を支える多様なメディア制作」「一般的な基礎学校からインクルージョン基礎学校への転換」「定期的な学校ラジオの配信」の4点が挙げられている (<https://www.degede.de/project/demokratiepreis-2019/>)。ここでは、「参加の構造とプロセス」として学級代表選挙と生徒会活動、「民主主義的能力の育成を支える多様なメディア制作」および「定期的な学校ラジオの配信」として学校ラジオ等のメディア制作、「一般的な基礎学校からインクルージョン基礎学校への転換」としてインクルージョンの理念にもとづく学校文化を取り上げる。

### ②生徒参加の特質Ⅰ：学級代表選挙と生徒会活動

同校では、2011年9月の「全体会議」(Gesamtkonferenz) で策定された「生徒の民主主義的な協働への支援に関するコンセプト」(„Konzept zur Förderung der demokratischen Mitwirkung der Schülerinnen und Schüler“) (Grundschule Bad Münster 2011) にもとづき、学級代表 (Klassensprecher) の選出および生徒会 (Schüllerrat) への参加が生徒参加の活

動の柱とされた (Grundschule Bad Münster 2011: 2)。このコンセプトでは、学級代表の選出および生徒会への参加について、以下のような具体的な取り組みが示されている。

学級代表の選出に関しては、まず学級代表および副代表の役割を明確化している。すなわち、「生徒、教員、学校経営担当者、協力者との連絡」「とくに生徒が利害を表明できない場合の、学級全体、学級の一部、各生徒が抱える問題への取り組み」「日常の学校生活の活性化に役立つ関心、提案、要求、希望の提出」「授業に教員が来ない場合の、学校経営担当者への連絡」「特定の役割モデル機能を有した、学級規則や校則の遵守」「生徒会での学級の代表、生徒会の会議の報告」の6点が挙げられ、生徒がどのような役割を果たすべきかを具体的に示した (Grundschule Bad Münster 2011: 2)。

コンセプトの中では、さらに生徒代表の選出に関する準備や実施方法についても11点にわたり詳細に示されている。たとえば、そのうちの4点目では、「学級代表および副代表の選挙の準備として学級において次のような重要概念が生徒に合わせて説明される。たとえば、『民主主義』、『選挙』、『共同責任』、『多数と少数』、『学級集団の全構成員の代表』である。同様に生徒は、学級代表および副代表の任務をよく理解するようになる」とされている (Grundschule Bad Münster 2011: 2)。

この学級代表の選出に関して注目すべき取り組みは、4点目に関連して学級代表の選出を手伝う「民主主義のお世話係」(Demokratiepaten) が設けられたことである。「民主主義のお世話係」とは、1年生と2年生の生徒が学級代表の基本的な任務や権限を身近なものとして理解するために、3年生と4年生の生徒代表が民主主義的な選挙の実施方法について説明する係のことである。少し遅れて2013年2月から導入された。「民主主義のお世話係」は「学級代表選挙ハンドブック」(Handbuch zur Wahl der Klassenspreche) や自分たちが作成したパワーポイントをもとに1年生、2年生の各学級を訪問し説明する (Jülich 2016: 26)。3年生と4年生の学級代表にとっては、1年生と2年生のお世話をするという点では下級生との交流の機会であるとともに、学級代表の役割や選挙の実施方法を分かりやすく伝えるという点では自らの学びの機会でもある。

また生徒会への参加に関しては、「生徒会は1年生から4年生までの学級代表で構成される。生徒会は定期的に半年に2回開催される。教員がその準備をする。生徒会はバード・ミュンダー基礎学校の生徒にとってとくに重要なテーマを扱う。生徒会は4名の代表を任命し、学校経営担当者と定期的に交流し、生徒会の抱える問題を提起する」とされ (Grundschule Bad Münster 2011: 3)、学級代表が各学級で出された意見や要望を学校全体の取り組みへと繋げていくための場として整備されている。



## ③生徒参加の特質Ⅱ：学校ラジオ等の多様なメディア制作

同校では、学校ラジオ（Schulradio）を始めとする多様なメディア制作も生徒の民主主義的な行動能力の育成に貢献している。DeGeDeのHPに掲載された同校の取り組み概要によると、すでに10年ほど前からメディア制作が始められていることが伺える（<https://www.degede.de/vielfaeltige-medienproduktionen-unterstuetzen-den-aufbau-demokratischer-kompetenzen/>）。

まず、「パート・ミュンダー基礎学校では数年にわたり、メディアリテラシーの育成が重視されている。2012年に課外活動グループ「映画」（Film AG）が開始され、生徒向けの映画制作は日常の学校生活において重要な意味を持つようになった。生徒のアイデアにもとづき、メディア教育に関連するテーマで短編映画が生み出されている。たとえば、『ゲーム・オーバー—私たちは出かける』（2013年）、『Whatsdepp』（2014年）という映画がある。どちらの映画も学校関係者に広く公開され、『教室での映画館』というプロジェクトにおいて、暴力を美化するコンピューターゲームの危険性への対処やソーシャルメディアサービスの使い過ぎへの対処に貢献した」とされるように、同校では、「課外活動グループ」（AG）での映画製作を契機として、メディアリテラシーの育成およびコンテンツづくりをととした民主主義教育の取り組みが始められた。

その後、地域の映画コンテストであるヴェーザーベルクラント映像クラッペ2016で優勝し、ヨーロッパコンクール2015でも全国賞を受賞するところまでに至った。こうした中で、「パート・ミュンダー基礎学校の映像制作は、2017年（『タイムゲーム』と『子どもの権利学校への道』）と2018年（『ウォーリーは立ち上がる』）にヴェーザーベルクラント映像クラッペを獲得した。2017年に民主主義的な学校開発の観点で描かれたドキュメンタリー『子どもの権利学校への道』は際立っていた。2017/2018年度のパート・ミュンダー基礎学校での子どもの権利に関する集中的な議論の最初の発火点となった」とされるように、映画製作を契機として「子どもの権利」に関する議論が始まった。

さらに、同校の取り組みは学校ラジオへと発展した。具体的には、「映画分野でのメディア教育の取り組みの過程で様々な学級や学習グループのさらなるプロジェクトを通じて、学校ラジオが開発された。このメディアの提供は今や非常に重要であり、私たちの学校の子どもと大人の日常生活にしっかりと定着している。自主制作のプログラムには何度も民主主義教育的な関心が向けられてきた。1年前に設立された課外活動『学校ラジオ』と並んで、課外活動『映画』や各学級はラジオ演劇、コマーシャル、レポートを実現し、ますます視聴者を増やしている。いくつかの大会の賞金によって各クラスと学校図書館用のオーディオプレイヤーボックスを25台購入した。これらは『リスニングステーション』として機能し、子どもたちは教室や図書館で

休憩時間中に学校ラジオの放送を聞くことができる（B102）。このように、民主主義教育の取り組みに関する知見が大幅に広がっている」とされるように、課外活動や各学級での取り組みの中で数多くの作品が生み出されるとともに、生徒の日常の活動や生徒の考えが定期的に発信されている。

また、「パート・ミュンダー基礎学校は現在、『子どものための民主主義』というテーマの独自のラジオポッドキャストの開発によって、活発なメディア教育および民主主義教育に関するさらに充実した取り組みを進めている。2018年10月にガウ・アルゲンスハイムのシュロス・アルデック基礎学校と共同で公開した最初の作品の後、子どもたちはさらに3つの作品を制作した。そのうちの2つは学校内のプロジェクト（『プラスチック廃棄物を避ける』、『インテグレーションとは何か？』）を扱っており、もう1つはアインベックハウゼン基礎学校の子どもたちの自然遊歩道を扱っている。子どもたちの視点から大小の民主主義的なプロジェクトを説明し、民主主義への効果を問かけるといふアイデアは高い成果を収めていることを示している」という。このように、数々の社会問題を扱った映画制作をとおして、同校の生徒は具体的な素材をもとに民主主義への理解を深めている。

## ④生徒参加の特質Ⅲ：インクルージョンの理念にもとづく学校文化

続いて、インクルージョンの理念にもとづく学校文化についてである。この点については、たとえば、保護者向けの就学手続き（Einschulungsverfahren）に関する案内書の中で次のように述べられている。すなわち、「パート・ミュンダー基礎学校は、すべての子どもたちに開かれたインクルーシブ学校として活動しており、そうあるよう努めている。原則として、特別な教育的ニーズがあると推定される、あるいは既にそのように認識されている子どもを持つ親は、子どもの教育に関して基礎学校か特別支援学校かを選択する権利を有する」（Grundschule Bad Münster 2020a：2）とされており、同校がインクルージョンの理念にもとづいた教育に取り組んでいることが明確に示されている。

また、同校の支援に関するコンセプト（Förderkonzept）の中では次のように述べられている。すなわち、冒頭の「指針となる考えおよび目的」（Leitideen und Ziel）において、「様々な才能を促進することは、パート・ミュンダー基礎学校の学校プロフィールの重要な部分であり、我々の理想像（Leitbild）である『共に学び、互いに寄り添う』（„Miteinander lernen – füreinander da sein“）を独自の方法で実現することで、我々は『学ぶことと達成することの個々の喜びを維持し、継続的に発展させる』ことを目指す（学校プログラム、1頁）。このことは、授業に関するコンセプトの基本的な構成要素であり、同時に我々の継続的な授

業開発のプロセスの視野に常に入っている」(Grundschule Bad Münster 2020b: 1)とされ、同校が目ざすべき理想像としてインクルージョンの理念が掲げられている。すでに策定されていた支援に関するコンセプトが改訂されることとなり、「今回のコンセプトは、2015年5月20日の全体会議(Gesamtkonferenz)で決議された支援に関するコンセプトをさらに発展させたものである。学校組織として2016/2017年度の実施に向けたものである」(Grundschule Bad Münster 2020b: 1)とされ、同校の2016年11月23日の全体会議で決議された理念であり、「パート・ミュンダー基礎学校での個別支援の目的は、子どもに達成感を与え、個人の成長をサポートし、各人の学習レディネスを維持、向上させることにある」(Grundschule Bad Münster 2020b: 1)と謳われている。

こうした同校のインクルージョンの理念の中心には、「子どもの学習レディネスを維持、向上させる、個人的な達成感をもたらすこと」とされる「個別支援」(Individuelle Förderung)の理念があり、ここから同校のあらゆる活動が形づくられていることが伺える(Grundschule Bad Münster 2020b: 2)。この「個別支援」の理念が同校の教育活動のベースに位置づくとともに、同校の学校文化を生み出している。当然のことながら、同校の生徒参加もこの理念のもとに形づけられるとともに実践されており、この理念に大きな影響を受けているといえる。

### (3) 事例Ⅱ:ピンネベルク生徒学校(Schülerschule Pinneberg)

#### ①事例校の概要

同校は、シュレスヴィッヒ・ホルシュタイン州南部のピンネベルク地区(Kreis)にある私立学校であり、第1学年～第10学年(小学校1年～高等学校1年)の生徒約220名が在籍する、選択型の全日制学校(Offene Ganztagschule)である。

同校の学校案内パンフレットには、「生活を学ぶ」(Leben lernen)および「学習を生きる」(Lernen leben)という標語が掲げられている。前者には「私たちの学校は1985年以来、放課後の自意識ある生活、職業選択、生涯学習への準備をするためにある」、「生徒は皆、何かを望み行うことができる。我々の任務は、10年にわたる共同的な学習の間、各人の学習過程において可能な限り最高の修了証を得るまで、異なる特性を持った生徒各人に寄り添うことにありと考えている」との説明が付され、各人が自分に合った形で生涯にわたり活かすことができる力を獲得することが目指されている。

また、後者には「教員と生徒は学校ではお互いを尊重し、喜びを持って活動する。生徒たちは、保護者によって積極的に建てられた、他に類のない管理しやすい学習環境としての、近代的な寮および自然豊かでバリアフリーの校舎で生活する」、「生徒学校は学習する学校である。30年以

上の、未来志向の授業コンセプトの経験およびあらゆるレベルの協力活動が基礎であり、エネルギーであり、すべての関係者の原動力としての情熱である」との説明が付されており、同校には質の高い、豊かな学習環境が用意されていることが伺える([https://www.schuelerschule.de/images/01\\_Website-Pflege/01\\_Die-Schule/Schuelerschule\\_Flyer\\_2018.pdf](https://www.schuelerschule.de/images/01_Website-Pflege/01_Die-Schule/Schuelerschule_Flyer_2018.pdf))。

DeGeDeの受賞校を紹介するHPで挙げられている同校の特徴は「インクルーシブな学習文化および学校文化」、「直接民主主義と代表制民主主義の制度化および委員会」の2点である(<https://www.degede.de/project/demokratiepreis-2019/>)。

#### ②生徒参加の特質Ⅰ:インクルーシブな学習文化および学校文化

まず、「インクルーシブな学習文化および学校文化」に関して、受賞理由の中では次のように述べられている(<https://www.degede.de/foerderkonzept-der-schuelerschule-in-pinneberg-waldenau-2019/>)。すなわち、「子どもは皆、学習をしたいと思っており学習することができる。こうした基本的な信念にもとづいて、生徒学校は『すべての子どものための学校』(Schule für alle)として1985年に設立された。その際、生徒学校のすべての子どもが楽しみ、喜んで活動するという考えが強調され重視されている。そのための前提条件は、どの子どもも自らの長所と短所が受け入れられており、歓迎されていると感じることにある。多様性(Verschiedenheit)は単一の『正常性』(Normalität)への順応を求めるものではなく、豊かさをもたらすもの(Bereicherung)として認識される」とされ、同校にはありのままの子どもたちの姿をすべて受入れるという信念が定着しており、子どもたちの多様な在り様が肯定的に捉えられている学校であることが伺える。

また、「こうして、子どもと大人の間だけでなく子ども間においても『対等な』(gleichwürdig)関係が生じている。こうした考え方は、デンマーク人の家族療法士イエスパー・ジュール(Jesper Juul)に由来し(イエスパー・ジュール「何が家族に役立つか」参照)、パートナー同士の希望、考え、ニーズは等しく真剣に受け止められ、年齢、性別、ハンディキャップに関して却下されたり無視されたりすることはないという関係の特徴づけている」とされ、生徒間だけでなく、教員と生徒の間においても「対等な」関係が構築されていることによって、同校の学校文化が形づくられていることが伺える。

さらに、「生徒学校では『支援』(Förderung)が広い意味で捉えられており、活動組織力、コミュニケーション能力、チーム形成能力といったキー・コンピテンシーの伸長が認知的な学習成果の向上と同様に重要である。このことから、自分自身、自分自身の学習の進展、お互いの学習の進展、ともに学び活動する環境に対する責任が中心的な役



割を果たしている。こうした責任を担うためには生徒たちが支え合うことが必要である。しかし同時に、自分は信頼されており、自分は自分と他者を信頼していると感じることも不可欠である」とされ、生徒同士が関わり合い、ともに活動することが重視され、その中から互いに信頼し合う関係が形成されることが重視されている。

こうした考え方をベースとして、具体的には次のような取り組みが評価されている。たとえば、「学級の中では様々な援助者システムがある。生徒は自由に申し出て、あるいは役割を分担して、クラスメートから支援を受け、クラスメートを支援する。最も上手く行った場合、どちらの生徒も互いに役割を果たすことができる。大人よりも生徒同士の方が互いに上手く説明し合える場合がある」、「学年を超えた多様な学習形態は、年齢に関係なく、どの生徒にも価値ある学習パートナーとなる機会を与える」といった生徒同士が多様に関わり合えるシステムであることが評価されている。

さらに学級会（Klassenrat）では、「定期的に実施される学級会では、学級でどのように対処するかについて話し合われる。生徒たちはたとえば遠足や学級の催しなどの活動を計画し、組織に関する課題について話し合い、紛争を解決する。その際、生徒たちは対話に関する決まりを遵守することを身につけ、対話を上手く進めていく方法やその結果を記録する意義を学習する。生徒たちが学級の課題に取り組む合意を見出すことで、生徒たちは自律性や責任感を獲得する」とされ、学級で生じる問題の解決や学級で取り組みたい行事の計画をとおして、生徒たちは自律性や責任感を身に付けている。

受賞理由で紹介されている取り組みはこの他にも多数あり、こうした数多くの取り組みが積み重なっていくことで、「支援」の考え方をベースとした「対等な」関係にもとづく、インクルーシブな学習文化や学校文化が形成され定着している。

### ③生徒参加の特質Ⅱ：直接民主主義と代表制民主主義の制度化および委員会

つぎに、「直接民主主義と代表制民主主義の制度化および委員会」についてである。同じく受賞理由では、「ピンネベルク生徒学校での参加」と題された同校の取り組みに関する説明の中で、「参加（Partizipation）は対話、具体的な形での共同活動の機会、共同決定を意味する」とされ、「任務と委員会（代表制の形態）」、「学習文化領域での参加」、「学校文化領域での参加」という3つの項目が挙げられている。ここでは前2者を取り上げることにする（<https://www.degede.de/partizipation-an-der-schuelerschule-pinneberg/>）。

まず、「任務と委員会（代表制の形態）」についてである。ここでは、「生徒代表制の組織（生徒集団からの学級代表（KlassensprecherInnen）、生徒代表（SchulsprecherInnen）、

学級代表協議会（KlassensprecherInnenrat）、生徒全体集会（SchülerInnen-vollversammlung）、学校会議構成員（Schulkonferenzmitglieder）」の選挙は、独立した秘密投票という民主主義の原理によるとされる、校内規程で定められた手続きにもとづいて実施される」、「生徒学校の学級代表の特別な任務は、たとえば、学級代表者会議に参加する、あるいは教員のチーム会議において授業づくりなどのアイデアや意見を表明するという点にある」、「生徒全体集会では、生徒代表が年に1回、学校の大講堂で選出される。候補者（第7学年以上）は自主的に作成した独自のプログラムを発表する。その後、生徒は各自1票を持つ。第1学年から第10学年の生徒の秘密投票により選出される。その際、最も多く票を獲得した（相対的多数）候補者ないしはチームが選出され選挙が承認される」とされ、厳正な選挙手続きを経て生徒代表が選出されるしくみが構築されている。

こうして選出された「生徒代表の任務は多様である」とされる。まず、「生徒代表は基本的に、学校管理職および様々な委員会に対して全生徒の利益を代表する。その際、学校管理職および連絡教員と定期的に（一般に1月に1回）情報交換を行う」とされ、生徒集団の利益代表としての役割が挙げられている。たとえば、「（学級代表と連絡教員から構成される）参加の議会形態である学級代表協議会は、中等教育段階の学校会議および教科別教員会議への提案準備のために決議を行う。学級代表協議会の会議は通常、授業時間内に実施される」とされるように、各学級での議論は学級代表協議会をとおして学校全体に反映される。

逆に、「生徒代表は学校管理職および委員会との対話について定期的に生徒代表制を担う生徒に情報を提供する。さらに、生徒代表制を担う生徒によってなされた決議、プロジェクト、活動が実施に移されることに対して責任を負う。最終的には州文部省や州生徒議会での生徒集団を代表する。キールから州文部省を訪問する際には、生徒代表は定期的に会合に参加する」とされるように、生徒集団への情報提供も生徒代表の役割に属するとされ、生徒集団全体による活動に関する責任者でもあることが示されている。

同校では、こうした学校内の代表制民主主義といえるしくみが整えられており、生徒はこのしくみをとおして学校的意思形成に参加している。

次に「学習文化領域での参加」についてである。たとえば、学級会を行う際の方法について、「学校独自のカリキュラムの枠内で、生徒が社会的、道徳的、民主主義的な能力を獲得することを支援する。そのため、第1学年から学級会が設けられている。生徒は行動に関するきまりを定め、議長や書記を任命する。重要であるのは、空間や時間に関する組み合わせを含む枠組み条件が確定されることである。たとえば、学級会が行われる場合、生徒は机を並べ

る体制から椅子を並べる体制に変える。そうすることで生徒には、教科の授業から学級会へ変えるということがはっきり分かる」とされており、学級会のような話し合いにおける手続きを経験するとともに、机の配置など、学級会を始めるための空間づくりにも配慮がなされていることが分かる。代表制民主主義とは異なる直接民主主義の体験も重視されていることが伺える。

他方、同校では授業に関する生徒の意見が尊重されている。たとえば、「生徒は、授業に関するフィードバックを表明するために、自然科学の時代に定期的に質問用紙を受け取る。さらに生徒は、提供された能力を評価する評価用紙を受け取る。生徒の評価と教員の評価との間に大きな開きがある場合、対話の場が設けられる。このように、生徒の援助により定期的に授業が評価される」とされ、生徒と教員が授業づくりについて丁寧に対話を重ねることで、生徒の意見が授業づくりに大いに活かされている。

また、「学習プロセスや学習成果を評価するために、我々の学校には半年ごとの対話（Halbjahresgespräch）がある。生徒は自己評価質問紙をもとに対話の準備をする。生徒は各回の対話の終わりに、自らが取り組みたい重点（Schwerpunkt）を最大で3つまで挙げる。この重点は半年間にわたり、常に対話の素材となる」とされ、生徒と教員の定期的な対話の中で、生徒にも目標や課題が設けられ、目的意識が高められることで主体的に授業に参加する意識が高められており、生徒は授業づくりをとおして直接民主主義の体験を得ることができる。同校では、学級会や授業づくりをとおして、一人ひとりが話し合いや学習に積極的に取り組むようになるための工夫がなされている。

#### （4）事例Ⅲ：エーイェンドルフ地区学校（Stadtteilschule Öjendorf）

##### ①事例校の概要

同校はハンブルク市のビルシュテット（Billstedt）地区にある公立の地区学校（Stadtteilschule）であり、義務型の全日制学校（Gebundene Ganztagschule）である。地区学校とはハンブルク市独自の制度であり、ギムナジウムと並んで設けられている、第5学年～第13学年（小学校5年～高等学校4年）の生徒が通う中等教育学校（weiterführende Schule）である。生徒数は約700名である（Behörde für Schule und Berufsbildung（Hrsg.）2020：37）。アビトゥーアを目ざす上級段階（Oberstufe）（第12～13学年）は近隣のクルト・ケルバー・ギムナジウム（Kurt-Körber-Gymnasium）との共同設置である。

同校はハンブルク市で取り組まれたプロジェクト「強い学校23+」（23+ Starke Schulen）の1校である。その報告書の中では、23校のリストが挙げられた上で、プロジェクトの目的として、「プロジェクト『強い学校23+』は、社会的に困難な状況にある、上記の基礎学校11校、地区学校

9校、ギムナジウム3校を支援し、生徒のために、取り組み開始時の特別な状況やニーズが考慮され、教科に関する能力と教科以外の能力を明確に向上させることにつながる授業を作り上げる」と述べられている。このプロジェクトは、社会的な課題を抱えた生徒が多い学校を支援するプロジェクトである（Vaccaro/Schumacher 2017：2）。

同校の取り組みは、DeGeDeのHPによると、「継続的な学校開発」（Iterative Schulentwicklung）、「ビルシュテット地区での取り組み」（Kommunale Initiativen in Billstedt）、「人生に関わる問題への対応および過激化の防止」（Auseinandersetzung mit Lebensfragen und Radikalisierungsprävention）の3点である。ここでは、これらの点を順に取り上げる。

##### ②生徒参加の特質Ⅰ：継続的な学校開発

「継続的な学校開発」について、DeGeDeのHPでは「永続化させるための選択があるプロジェクトや取り組みの検証」および「継続的に変化するモザイクとしての全体構想理解」が挙げられており、同校の応募書類の中では次のように述べられている（<https://www.degede.de/iterative-schulentwicklung-an-der-stadtteilschule-oejendorf/>）。

まず、「エーイェンドルフ地区学校では、地区学校の新たに揃った学校管理職が2年前に『学校を再考する』（Schule neu denken）という取り組みをスタートさせた。学校に関与するすべての人に、学校を学習の場（Lernort）、経験の場（Erfahrungsort）、生活の場（Lebensort）と捉えることが求められた」とされるように、学校管理職が取り組みをスタートさせたことで学校開発が始まったことがわかる。その際、学校ビジョンとして「学習の場」「経験の場」「生活の場」というコンセプトが示された。

これに続き、「職員室に、提案書を掛けるための物干し用ロープが張られ、教室では学級会で議論され熟慮され、保護者も保護者会や保護者の夕べに参加することが促された。各人が学習計画、経費、その他の制限について初めて自由に考えを出し合うことができた」とされるように、教員、生徒、保護者がそれぞれに取り組みを始めた。

さらに、「教育記念日には、学校管理職と教職員のチームが同僚にテーマに沿って精選された成果を披露した。それ以来、課外活動グループでは数多くのグループで熱心に活動がなされ、新たに開発され、我々の、学校というモザイク（Schulmosaik）は少しずつ形をなしていった。民主主義が大きな役割を果たし、学校に関与している各人が参加し、議論し、聞く可能性を持っているという形である」とされ、とくにここで「学校というモザイク」と表現されていることから伺えるように、各集団の基本的な考えが互いに提出され共有される中で、次第に学校全体として一つの形をなしていったことが伺える。

特筆すべき点は、「我々は、民主主義的な考え方を我々



の学校に持ち込むだけでなく、課外活動グループ（AG）をとおして、我々がまだ途上にあり、取り組み続けなければならない理想像を具体的に説明する、いくつかのプロジェクトを紹介したい。なぜなら、我々の、学校というモザイクは、常に変化する生徒、保護者、多様な教員や協力者によって恒常的な変化の中にありながらも、我々の学校では誰もが受け入れられ重視され、学校というモザイクとともに作り上げるという目的を見失ってはならないからである」とされるように、たとえある時点で教員、生徒、保護者という学校関係者の中で何らかの合意が形成されたとしても、時間が経過し状況が変化することで当事者が入れ替わっていくため、そうした中では、つねに議論を重ねて新たな合意を形成し続けなければならないとされた点である。つまり、学校開発に終わりはなく、継続的な学校開発を学校文化として定着させることが必要になることが示された。同校では、こうした形で、教員、生徒、保護者が学校開発に取り組む体制が整備されている。

### ③生徒参加の特質Ⅱ：ビルシュテット地区での取り組み

次に、「ビルシュテット地区での取り組み」には、「生徒の視点からの地区の様子：地域における民主主義学習の基礎」が挙げられている。これには社会参加に向けた生徒のための学校プロジェクト「#ビルシュテット・ファースト」があり、同校の応募書類では以下のように述べられている（<https://www.degede.de/billstedtfirst-ein-schulprojekt-fuer-schuelerinnen-zur-gesellschaftlichen-teilhabe/>）。

まず、「『神が怒ってビルシュテット、ハム、ホーンを創造した』と言われる。ビルシュテットは長年、若者の失業、暴力、麻薬犯罪を特徴とするネガティブな評判で人目についてきた。ビルシュテットは悪名高く、生徒もそれを知っている。生徒はそれが不公平だと思っているが、とにかく、それが彼らの『覆面』（Hood）なのである」とされるように、同校が位置する地域の評判は悪く、地域環境は決してよいとはいえない。しかし、こうした地域にある学校でも取り組める活動がある。「美しい春の日に、私はビルシュテットを自転車で通り抜け、ビルシュテットの異なる面、つまりカラフルで、賑やかで、多文化で、数多くの笑顔と親切な人々を見つけることができる」、「そのため、ビルシュテットに新しい色彩を与えるというアイデアを生徒たちと一緒に実現させたいという願望が生まれた」とされるように、同校の教員は、生徒と地域住民が交流する取り組みを構想した。この取り組みにより、生徒と地域住民との新たな繋がりが生まれ、生徒の意識に変化が生まれた。

具体的には、「我々の生徒を最も動かすものは何か。これらは、すぐ近くにいる人々から得る物語、感情、イメージである。このプロジェクトは、地域へのアイデンティティを強化することを目的としている。地区では地域に

とって各人の意見がいかに重要であるかが示されるべきである。身近な環境を改めて見直すことで、生徒が社会の問題に責任を持つよう、促されるべきである。生徒は徐々に、地域の社会問題や課題を認識するよう導かれていく。『私にとって何が重要か』、『何が私を動かすか』といった問いと関連して、後に自分たちの地域を包括的に理解するために、自分自身で取り組みを始める」とされるように、生徒が地域へのアイデンティティを形成するために、地域住民との交流をとおして地域が抱える諸問題を生徒各人の視点から取り上げることに取り組んだ。

その結果、「この新しいアプローチは、生徒が、彼らが日常生活を批判的に振り返り、ビルシュテットを新たに体験し、政治的および社会的な生活に積極的に関与するのを助けるはずである。重要な関心事は、課題を抱えたグループとして一緒に成長し、解決策を独自に開発し、デザインの過程を可能な限り自己管理することである。同時に、生徒は非常に現実的な仕事の文脈で彼らの社会的、方法論的および技術的能力を訓練する。生徒には、創造的な仕事、面接、文書作成、政治的ノウハウが求められる。チームづくりゲームと儀式化された時間経過は、各人の意見を聞ける前向きな学習の雰囲気を作り出す。そこには、新しいことを学び発見する楽しさと喜びがある」とされるように、地域を素材として学習を進める中で、生徒は学校での学びの必要性に気づくとともに、活動を進める中で求められる力を身に付けていった。

「地区プロジェクトは2018/19年からすでに始まっており、年度の前半は社会科の授業と並行して提供されている。第10学年の2つの学級から計19名の生徒が参加している。実際の取り組みはグループごとに半日ずつ行われる。生徒によってもたらされた地区プロジェクトの成果は社会科の評点の一部に入れられる」とされるように、このプロジェクトに参加し地域住民との交流に取り組んでいる生徒が増えてきている。地域を捉え直す取り組みをとおして、地域住民との交流体験を持つことにより、生徒たちには様々な気づき、変化、成長が生じている。

### ④生徒参加の特質Ⅲ：人生に関わる問題への対応および過激化の防止

もう一つのカテゴリーとして挙げられる「人生に関わる問題への対応および過激化の防止」では、宗教に関する諸問題を扱う取り組みが進められており、同校の応募書類では次のように述べられている（<https://www.degede.de/auseinandersetzung-mit-lebensfragen-und-radikalisierungspraevention/>）。

「宗教問題にもっと集中して取り組みたい若者や宗教的過激主義の兆候を示している若者のために、本校は、宗教科（あるいは異文化トレーニング経験のある教員）や宗教の代表者によって進行する課外討論グループ（『オアシ



ス』を昼休み(金曜日を除く)に提供した。『オアシス』は、生徒が自分の個人的な質問や議論のテーマについて話し合える場所でもある。教育、日常生活での暴力、セクシュアリティ、消費または平等、役割モデル、人間性、といったトピックである...我々是一緒にオアシスのために以下の基準を設定した」とされるように、「オアシス」と命名された生徒間の討論グループが設けられ、様々なテーマについて語り合う機会が設定された。しかし、生徒の内面に深く接する場の運営には細心の配慮が求められる。そこで、同校では以下のようなルールが設定された。

すなわち、「オアシスでは、教員と生徒の間にギャップはない。我々は皆、お互いから学び、お互いを尊重して扱う」、「我々は、すべての人の文化、家族、宗教をその人を特徴づけるよりどころ(Anker)と見なす」、「オアシスは生徒の人生(Leben)に関わるべきである。オアシスは生徒が彼らの夢や彼らの存在が認められ感謝される場所であり、他者を認め他者に感謝することを学ぶ場所である」といったルールであり、メンバーはお互いに対等に接すること、各人の文化や宗教を尊重するとともに各人を尊重すること、自己も他者も認められ感謝されること、といった価値が守られることが求められている。

具体的には、「第9学年と第10学年の宗教コースでは、ハンブルグの若者のための宗教間の討議フォーラム『ヤング・ビジョン』に定期的に参加している。このフォーラムは、イスラム研究専門評議会(Fachrat Islamische Studien)、ハンブルグ・ユダヤ人協会(Jüdische Gemeinde in Hamburg)、世界北部教会(Nordkirche Weltweit)、シューラ・ハンブルク(Schura Hamburg)、ハンブルク・チベットセンター(Tibetisches Zentrum Hamburg)と共同で開催される。ここでは、異なる宗教的背景を持つ若者たちが、人生の大きな問題について議論し、お互いに敬意を持って話し合い、学校外でも...お互いを知ることができる」とされるように、生徒が多様な宗教関係者との交流を持つ中で、生徒が物事を相対的に捉えることができる機会が提供されている。

授賞理由の中では、「人が敬意を持って互いに話し合いをする際に、宗教間での対話の中に多元主義(Pluralismus)の考えが見られる。多元主義の価値は、応募書類の中の、同校のモットーが『エーイェンドルフ地区学校-数多くの価値にある人と考えからなるモザイク』にあること、ワークショップ『私』や国際色豊かな準備クラスがあること、ホームページで『世界は教室にもある』と言われていること、にも見られる」とされており、同校に多元主義の考えが広く定着していることが評価されている(Piontek 2019: 2)。

### 3. 民主主義教育における生徒参加タイプの分析

ここでは、本研究で示した3校の事例をもとに、表1に挙げた生徒参加タイプの類型化を再考する。すなわ

ち、表1の観点から3校の生徒参加を捉え直す作業を行う。

事例Ⅰ：バート・ミュンダー基礎学校での生徒参加には、「学級代表選挙と生徒会活動」、「学校ラジオ等の多様なメディア制作」、「インクルージョンの理念にもとづく学校文化」といった特質が見られた。まず、「学級代表選挙と生徒会活動」では、学級代表や副代表の役割を明確化し、その選出方法についても詳細に示すとともに、「民主主義のお世話係」が設けられていた。さらに生徒会の取り組みも整備されていた。これは、表1でいえば、「タイプⅢ：問題解決型」に属すると考えられる。また「行動形態」は「共同決定」である。ただし、「活動の場」は「学校全般」のみではなく「各学級」も加わっている。

次に、「学校ラジオ等の多様なメディア制作」では、映画製作や学校ラジオの番組制作をととして、生徒は自分たちの意見を形成し発信する機会を得た。またその中でプラスチック廃棄物問題などの社会問題を取り上げながら民主主義への理解を深めていることが示されていた。これは、表1でいえば、「タイプⅠ：体験活動型」である。しかし、「行動形態」としての「責任遂行」とは異なり、「意見形成・発信」という要素を持っている。また「活動の場」としては「学校全体」とともに「地域社会」への広がりも持っている。

続いて、「インクルージョンの理念にもとづく学校文化」では、「個別支援」の理念が学校文化に影響を与えているとともに、生徒参加にも影響を与えていることが伺えた。これは、表1でいえば、これまでのどのタイプにも該当しない。これは民主主義教育やそこでの生徒参加だけでなく、同校の教育活動全体に影響を与える理念であり、表1で挙げた「行動形態」や「活動の場」といった観点の他に「学校全体の理念」として別の項目を設定する必要があるといえる(同時に、表に「観点」、「タイプ」と明示)。そこで、同校のこの取り組みの分析から、表1の「行動形態」および「活動の場」に加え、もう一つの観点として「学校全体の理念」という観点を設けることにする。

事例Ⅱ：ピンネベルク生徒学校での生徒参加には「インクルーシブな学習文化および学校文化」および「直接民主主義と代表制民主主義の制度化および委員会」に特質が見られた。前者の「インクルーシブな学習文化および学校文化」では、生徒間だけでなく教員と生徒の間においても「対等な」関係が見られ、生徒同士が関わり合い、ともに活動することが重視されていることが示されていた。こうした関係をベースとして学級会では各人の自律性や責任感が形成されており、さらには学習文化や学校文化を形成していることが示されていた。こうした内容は、事例Ⅰの「インクルージョンの理念にもとづく支援体制」と同様に「行動形態」や「活動の場」というよりも「学校全体の理念」に関わる内容である。したがって、同校のこの点も「学校

全体の理念」として扱うことにする。

後者の「直接民主主義と代表制民主主義の制度化および委員会」では、生徒代表の任務が示されるとともに、厳格な選挙手続きのもとに学校の意思形成への参加システムが整備されている。他方、学級会における話し合いも重視されており、生徒と教員の対話の場が設けられており、授業づくりにおいて生徒の意見が尊重されている。これは表1でいえば、「タイプⅡ：授業づくり型」であるとともに「タイプⅢ：問題解決型」でもある。「行動形態」に関しては、「タイプⅡ：授業づくり型」では「教員との対話」であり、「タイプⅢ：問題解決型」では「共同決定」である。また「活動の場」に関しては、「タイプⅡ：授業づくり型」では「授業／学習」であり、「タイプⅢ：問題解決型」では「学校全般」である。

事例Ⅲ：エーイェンドルフ地区学校での生徒参加には、「継続的な学校開発」、「ビルシュテット地区での取り組み」、「人生に関わる問いへの対応および過激化防止」といった点に特質が見られた。まず、「継続的な学校開発」では「学校というモザイク」というスローガンのもとで教員、生徒、保護者という、すべての学校関係者が学校開発に取り組む体制が整備されていることが示された。これは、表1でいえば、「タイプⅢ：問題解決型」に属するといえる。「行動形態」は「共同決定」、「活動の場」は「学校全般」である。

次に、「ビルシュテット地区での取り組み」では、同校が位置する地域の評判が悪いことから、地域へのアイデンティティを形成するために地域の諸問題を素材として学習を進めるとともに、実際に地域住民との交流も始められた。これは、表1で言えば、「タイプⅠ：体験活動型」に属するといえる。「行動形態」としては「地域学習・地域交流」であり、「活動の場」としては「地域社会」である。

続いて、「人生に関わる問題への対応および過激化の防止」では、「オアシス」と命名された、多元主義を理念とした生徒間での語り合いの場を設け、異なる宗教間での対話を行っている。これは、表1で言えば、「タイプⅠ：体験活動型」に属するといえる。「行動形態」は「生徒間対話」であり、「活動の場」は「学校全般」である。

以上3校の事例校における生徒参加タイプを整理すると、表4のようになる。

#### 4. 民主主義教育における生徒参加タイプの精緻化

生徒参加タイプの試案（事例校：3校）（表1）に、本研究の生徒参加タイプの類型化（事例校：3校）（表4）を加えると、表5（事例校：6校）のようになる。

試案と比べると、次の3点で生徒参加タイプの類型化が精緻化されたといえる。第一に、生徒参加タイプを捉える観点として新たに「学校全体の理念」が追加された点である。試案の段階では、この点に関する分析が不足してい

た。本研究で取り上げた事例校の分析を進める中で、この観点を設ける必要性が見出されたため、観点の一つとして加えることができた。

さらにいえば、今回の事例校で見ると、「学校全体の理念」としてはいずれも「インクルージョン」が挙げられている。「インクルージョン」の理念は、「学校開発賞」の「質の分野」の観点として挙げられていた。元来、民主主義教育の理念と親和性が強く、2005年にBLKプログラム「民主主義を学び生きる」の中間報告会議で採択された「マクデブルク・マニフェスト」（Magdeburger Manifest）の中でも触れられていた。具体的には、10点挙げられているうちの5番目に、「5. 民主的な道は、教育的にも政治的にも、すべての当事者を取り込み（インクルージョンと参加（Inklusion und Partizipation））、十分に吟味しながら公正の原理を志向して決定することを可能にし（協議）、目的に沿って控えめに手段を投入し（効率性）、大衆を作り出し（透明性）、法や道徳の規準にもとづいて行動や制度の批判的検討を保証する（正当性）という、明確で共通に分かち持たれた意思に依拠している」と謳われ、「参加」と並ぶ重要な理念となっている（DeGeDe 2018b：2）。

第二に、同一校が複数の生徒参加タイプに同時に属することが見出された点である。たとえば、パート・ミューンダー基礎学校の生徒参加は、「タイプⅠ：体験活動型」とともに「タイプⅢ：問題解決型」にも属することが見出された。本研究の冒頭でも、民主主義教育には多様な実践形態が見られることを指摘した。その要因の一つがこうした複数のタイプの属する学校があり、その組み合わせのバリエーションが多様であることにある。本研究ではこの点についての具体的事例を示すことができた。

第三に、「行動形態」および「活動の場」の項目に新たな内容が見出されたことである。

本研究での事例校の分析により、すでに観点として挙げていた「行動形態」および「活動の場」の項目に、新たな形態や場が追加された。一つのタイプの中にも多様な「行動形態」があり、異なる「活動の場」があることを具体的に示すことができた。新たな内容が増えていくことで、各タイプの特徴がより一層、明確になる。

現時点ではまだ、「行動形態」や「活動の場」で挙げられている各項目が、事例校固有の「行動形態」や「活動の場」であるように見えるかもしれない。しかしながら、事例校がさらに増えていくことで、新たに生徒参加に取り組む学校にとっては、自校でも実践可能と思える選択肢が増えることとなり、多様な選択肢の中から自校に適した活動を選択することができるようになる。すでに取り組んでいる学校にとっても、より適切な活動に転換することができるようになる。こうした点で生徒参加タイプの類型化は、民主主義教育の質の向上に貢献する知見を提供できるといえる。

表4 生徒参加タイプの類型化（本研究の事例校：3校）

タイプ 観点	タイプⅠ：体験活動型	タイプⅡ：授業づくり型	タイプⅢ：問題解決型
事例校	バート・ミュンダー基礎学校 エーイエンドルフ地区学校	ピンネベルク生徒学校	バート・ミュンダー基礎学校 ピンネベルク生徒学校 エーイエンドルフ地区学校
学校全体の 理念	インクルージョン (バート・ミュンダー基礎学校)	インクルージョン (ピンネベルク生徒学校)	インクルージョン (ピンネベルク生徒学校)
行動形態	意見形成・発信 (バート・ミュンダー基礎学校) 地域学習・地域交流 (エーイエンドルフ地区学校) 生徒間対話 (エーイエンドルフ地区学校)	教員との対話 (ピンネベルク生徒学校)	共同決定 (バート・ミュンダー基礎学校、 ピンネベルク生徒学校、 エーイエンドルフ地区学校)
活動の場	各学級／学校全般／地域社会	授業／学習	各学級／学校全般

表5 生徒参加タイプの類型化（事例校：6校）

タイプ 観点	タイプⅠ：体験活動型	タイプⅡ：授業づくり型	タイプⅢ：問題解決型
事例校	ノイピーン学校 バート・ミュンダー基礎学校 エーイエンドルフ地区学校	マルティン学校 ピンネベルク生徒学校	マティアス・クラウディウス学校 バート・ミュンダー基礎学校 ピンネベルク生徒学校 エーイエンドルフ地区学校
学校全体の 理念	インクルージョン (バート・ミュンダー基礎学校)	インクルージョン (ピンネベルク生徒学校)	インクルージョン (ピンネベルク生徒学校)
行動形態	責任遂行 (ノイピーン学校) 意見形成・発信 (バート・ミュンダー基礎学校) 地域学習・地域交流 (エーイエンドルフ地区学校) 生徒間対話 (エーイエンドルフ地区学校)	自己決定 (マルティン学校) 教員との対話 (ピンネベルク生徒学校)	共同決定 (マティアス・クラウディウス学校、 バート・ミュンダー基礎学校、 ピンネベルク生徒学校、 エーイエンドルフ地区学校)
活動の場	各学級／学校全般／地域社会	授業／学習	各学級／学校全般

## 5. 今後の研究課題

今後の研究課題として、次の4点を挙げる。第一に事例分析の蓄積による生徒参加タイプの精緻化を再度、挙げる。事例分析の蓄積に関しては、さらに事例校を増やし分析を進めていく必要がある。生徒参加タイプの試案および本研究での事例校の分析をとおして、基本的なタイプはある程度、挙げる事ができている。各タイプにおける「行動形態」や「活動の場」については、さらに多様なバリエーションが考えられるため、分析する事例校を増やし、分析を進めていく必要があるといえる。

第二に学校段階および学校種にもとづく生徒参加の分析である。学校段階の観点からいえば、初等教育段階の基礎

学校における生徒参加と中等教育段階の学校種における生徒参加には当然のことながら一定の相違があり、まずはこの点に関する分析を進めていく必要がある。初等教育段階の学校において形成された諸能力が中等教育段階の学校においてどのように受け継がれており、また新たな諸能力の形成が目ざされているのかといった点にも関係する。ヒンメルマン（Himmelmann, G）が挙げる民主主義教育の3つの形態（Himmelmann 2004：18）のどの部分にウエイトを置くかにも影響されるため、学校段階との対応関係を軸として分析を進めて行く必要がある。

また学校種の観点からいえば、中等教育段階のギムナジウムとそれ以外の学校種では生徒参加タイプに一定の相違



があることが想定される。「行動形態」においても「活動の場」においても学校種による特質が見出されることが想定される。

第三に各タイプにおいて形成される能力に関する分析である。第二の点と関連して、生徒参加の各タイプにおいて形成される諸能力には、ある程度の相違があることが想定される。「活動形態」や「活動の場」とともに、「形成される諸能力」についても関連させながら分析を進めて行く必要があると考える。

第四に試案で挙げた事例校の再分析である。本研究でのタイプ分け作業をととして、すでに試案の段階で整理した事例校の取り組みを再度、分析し直す必要があることが見えてきた。試案では、基本的なタイプ分けを重視したために、「学校全体の理念」に関する分析が不足していた。この点に加え、特徴的な「活動形態」に着目していたため、他のタイプに属する活動を見落としていた可能性があるためである。1校の取り組みは多面的である。事例校の実践のどこをどのように切り取り、どこを切り取らないかの判断は難しい部分があるものの、生徒参加タイプの精緻化とともに、過去の事例校の再分析を行う意義はあると考える。

#### <引用・参考文献>

- 柳澤良明 (2014)「ドイツにおける民主主義教育の実践枠組み」、『香川大学教育学部研究報告 第Ⅰ部』第141号、43-57頁。
- 柳澤良明 (2016)「ドイツにおける民主主義教育と生徒参加—新たな生徒参加機能の解明—」、『香川大学教育学部研究報告 第Ⅰ部』第146号、35-46頁。
- 柳澤良明 (2018)「ドイツの民主主義教育から見た日本の主権者教育の課題」、『香川大学教育学部研究報告 第Ⅰ部』第149号、137-151頁。
- 柳澤良明 (2020)「ドイツにおける民主主義的な学校文化形成の取り組み」、『香川大学教育学部研究報告』第2号、69-82頁。
- 柳澤良明 (2021)「ドイツ民主主義教育における生徒参加の類型化に関する試案」、『香川大学教育学部研究報告』第4号、45-58頁。
- Behörde für Schule und Berufsbildung (Hrsg.) (2020): Den richtigen Weg wählen – Hamburgs weiterführende Schulen im Schuljahr 2021/22. In: <https://www.hamburg.de/contentblob/2036990/9aa567a1e33866f6a89caf34374497e9/data/broschuere-weiterfuehrende-schulen.pdf> (Download am 6.5.2021)
- DeGeDe (2016): Hommage an die Demokratiepädagogik – 10 Jahre DeGeDe. In: <https://www.degede.de/project/festschrift-10-jahre-degede/> (Download am 24.3.2021)
- DeGeDe (2018a): Hinweise für die Beteiligung an der Ausschreibung zum Preis für demokratische Schulentwicklung 2019. In: <https://www.degede.de/wp-content/uploads/2018/10/2019-hinweise-fuer-portfolio.pdf> (Download am 23.3.2021)
- DeGeDe (2018b): Magdeburger Manifest – Gründungsdokument 2005. In: <https://www.degede.de/wp-content/uploads/2018/11/degede--manifest.pdf> (Download am 31.5.2021)
- de Haan, Gerhard/Edelstein, Wolfgang/Eikel, Angalika (Hrsg.) (2007): Qualitäts- rahmen Demokratiepädagogik. Weinheim und Basel: Beltz.
- Förderprogramm Demokratisch Handeln (Hrsg.) (2016): Gesagt. Getan. Ergebnisse der Ausschreibung 2015. In: [https://www.demokratisch-handeln.de/fileadmin/inhalte/Formulare\\_Broschueren/Die\\_Ausschreibung\\_2015.pdf](https://www.demokratisch-handeln.de/fileadmin/inhalte/Formulare_Broschueren/Die_Ausschreibung_2015.pdf) (Download am 25.3.2021)
- Förderprogramm Demokratisch Handeln (Hrsg.) (2017): Gesagt. Getan. Ergebnisse der Ausschreibung 2016. In: [https://www.demokratisch-handeln.de/fileadmin/inhalte/Formulare\\_Broschueren/Die\\_Ausschreibung\\_2016.pdf](https://www.demokratisch-handeln.de/fileadmin/inhalte/Formulare_Broschueren/Die_Ausschreibung_2016.pdf) (Download am 25.3.2021)
- Förderprogramm Demokratisch Handeln (Hrsg.) (2018): Gesagt. Getan. Ergebnisse der Ausschreibung 2017. In: [https://www.demokratisch-handeln.de/fileadmin/inhalte/Formulare\\_Broschueren/Die\\_Ausschreibung\\_2017.pdf](https://www.demokratisch-handeln.de/fileadmin/inhalte/Formulare_Broschueren/Die_Ausschreibung_2017.pdf) (Download am 12.5.2021)
- Grell, Claudia (2017): Anerkennung erleben in der Ich-Werkstatt. In: Hamburg macht Schule, Heft 1/2017, S.16-17. In: <https://www.hamburg.de/contentblob/8448222/6308640ec7621a8c37f51f6f5bfe6a17/data/hms-1-17.pdf> (Download am 13.5.2021)
- Grundschule Bad Münster (2011): Konzept zur Förderung der demokratischen Mitwirkung der Schülerinnen und Schüler. In: [https://www.gs-badmuender.de/pdf-konzepte/demokratische\\_mitwirkung\\_schueler.pdf](https://www.gs-badmuender.de/pdf-konzepte/demokratische_mitwirkung_schueler.pdf) (Download am 25.3.2021)
- Grundschule Bad Münster (2013): Integrationskonzept. In: <https://www.gs-badmuender.de/pdf-konzepte/integrationskonzept.pdf> (Download am 26.5.2021)
- Grundschule Bad Münster (2016): Handbuch zur Wahl der Klassensprecher. In: [https://www.gs-badmuender.de/pdf-konzepte/2016\\_03\\_31\\_handbuch-klassensprecherwahl.pdf](https://www.gs-badmuender.de/pdf-konzepte/2016_03_31_handbuch-klassensprecherwahl.pdf) (Download am 25.3.2021)
- Grundschule Bad Münster (2018): Jahresthema „Spielen“. In: [https://www.gs-badmuender.de/bilder-projekte\\_2018-2019/2018\\_09\\_11\\_infoblatt-jahresthema-spielen.pdf](https://www.gs-badmuender.de/bilder-projekte_2018-2019/2018_09_11_infoblatt-jahresthema-spielen.pdf) (Download am 24.3.2021)
- Grundschule Bad Münster (2020a): Einschulungsverfahren. In: [https://www.gs-badmuender.de/pdf-konzepte/2020-10-09\\_einschulungskonzept\\_neu.pdf](https://www.gs-badmuender.de/pdf-konzepte/2020-10-09_einschulungskonzept_neu.pdf) (Download am 26.5.2021)
- Grundschule Bad Münster (2020b): Förderkonzept. In: [https://www.gs-badmuender.de/pdf-konzepte/2020-11-04\\_foerderkonzept\\_neu.pdf](https://www.gs-badmuender.de/pdf-konzepte/2020-11-04_foerderkonzept_neu.pdf) (Download am 26.5.2021)

- Himmelmann, Gerhard (2004): Demokratie-Lernen: Was? Warum? Wozu?, in [www.pedocs.de/volltexte/2008/216/pdf/Himmelmann.pdf](http://www.pedocs.de/volltexte/2008/216/pdf/Himmelmann.pdf) (Stand: 27.08.2017)
- Jülich, Nicole (2016): Demokratiepaten. In: Förderprogramm Demokratisch Handeln (Hrsg.) (2016), S.26.
- KMK (2018): Demokratie als Ziel, Gegenstand und Praxis historisch-politischer Bildung und Erziehung in der Schule. In: [https://www.kmk.org/fileadmin/Dateien/pdf/PresseUndAktuelles/2018/Beschluss\\_Demokratieerziehung.pdf](https://www.kmk.org/fileadmin/Dateien/pdf/PresseUndAktuelles/2018/Beschluss_Demokratieerziehung.pdf) (Download am 7.12.2020)
- Piontek, Regina (2019): Laudatio Stadtteilschule Öjendorf. In: <https://www.degede.de/wp-content/uploads/2019/12/2019-ladatio-regina-piontek-stadtteilschule-ojendorf.pdf> (Download am 22.3.2021)
- Stadtteilschule Öjendorf (2015): Ich-Werkstatt Konzept (Material). In: <https://www.hamburg.de/contentblob/8883328/7feb2a6ccc4fbb853529d8c441897a4a/data/sts-oejendorf-material-konzept.pdf> (Download am 13.5.2021)
- Stadtteilschule Öjendorf (2015): Ich-Werkstatt Konzept (Faltblatt). In: <https://www.hamburg.de/contentblob/8883322/ed9b4a7a788a693201399ce0c8f4d5e0/data/sts-oejendorf-konzept.pdf> (Download am 13.5.2021)
- Stadtteilschule Öjendorf (2015): Praxisbaustein Die „Ich-Werkstatt“ Stadtteilschule Öjendorf. In: <https://www.hamburg.de/contentblob/8883014/53a5db42a17698bf8bf81de736f0b3f2/data/sts-oejendorf-praxisbaustein.pdf> (Download am 13.5.2021)
- Vaccaro, Julia/Schumacher, Thorsten (2017): Projektbericht 23+ Starke Schulen 2013–2017. In: <https://www.hamburg.de/contentblob/10120248/70ec1b9f1d2f7a90d2de36ada2b415bc/data/projektbericht-23-2013-2017.pdf> (Download am 13.5.2021)
- Wettbewerb Demokratisch Handeln (Hrsg.) (2019): Ergebnisse der Ausschreibung 2018 gesagt. getan. In: [https://www.demokratisch-handeln.de/fileadmin/inhalte/Formulare\\_Broschueren/Die\\_Ausschreibung\\_2018.pdf](https://www.demokratisch-handeln.de/fileadmin/inhalte/Formulare_Broschueren/Die_Ausschreibung_2018.pdf) (Download am 12.5.2021)
- Wettbewerb Demokratisch Handeln (Hrsg.) (2020): Ergebnisse der Ausschreibung 2019 gesagt. getan. In: [https://www.demokratisch-handeln.de/fileadmin/inhalte/2019\\_DH\\_KDS\\_Band\\_DigitaleAusgabe.pdf](https://www.demokratisch-handeln.de/fileadmin/inhalte/2019_DH_KDS_Band_DigitaleAusgabe.pdf) (Download am 12.5.2021)
- Wettbewerb Demokratisch Handeln (Hrsg.) (2021): Ergebnisse der Ausschreibung 2020 gesagt. getan. In: [https://www.demokratisch-handeln.de/fileadmin/inhalte/projektadmin/uploads/dokumente/2020\\_PBBand\\_interaktiv\\_DH.pdf](https://www.demokratisch-handeln.de/fileadmin/inhalte/projektadmin/uploads/dokumente/2020_PBBand_interaktiv_DH.pdf) (Download am 12.5.2021)

(追記2) 本研究は、科研費・基盤研究 (C) 「ドイツ初等中等学校の民主主義教育における生徒参加の類型化および体系化に関する研究」 (課題番号: 18K02672) および科研費・基盤研究 (C) 「生徒参加による主権者教育に関する日米仏独の比較研究」 (課題番号: 18K02544) による研究成果の一部である。

(追記1) 本研究は、日本教育経営学会第61回大会での自由研究発表 (2021.6.5) に加筆・修正を加えたものである。